



低處高思

～自ら啓き 未来を拓く～

令和5年7月19日

発行 北垣内 博

若々しいエネルギーと誠実さと優しさに満ちた1学期 終業

3年生の修学旅行で始まった1学期、72日間が終業いたします。大きな事故がなく過ごすことができたことを共に喜び合いたいと思います。

ある人が「求める心に素敵な出会いがある」と言いました。皆さんにもきっと素敵な出会いがあったのではないのでしょうか。それは、人であったかもしれません。目に見えないものであったかもしれません。あるいは、新しい自分自身であったかも知れません。

私は、この1学期、生徒のあいさつする姿や清掃への取り組みに快い変化の兆しを感じています。さわやかな笑顔で声をかけてくれる生徒、膝をつき、黙々と床を磨く生徒から私は、たくさんのお話を教えられました。また、3年生を中心に活躍した部活動、夏季大会も同様です。若々しいエネルギーが満ちあふれ、困難な中にあっても感受性を守ろうとする誠実な姿があり、他の人の気持ちを思いやる本当の優しさがありました。

今後、生徒には夏休みならではの時間的余裕を計画的に活用してほしいと思っています。時間的余裕は、人の心にゆとりを与えますが、人を駄目にした例もたくさんあります。私たちは、時間的余裕に試されているのだと思います。

○国語・英語の力で「多くの人とよいつながりをつくる」 ○数学の力で「身の回りに起きていることを論理的に考えてみる」 ○理科の力で「これからの自分を予測してみる」 ○社会の力で「未来の世の中を想像してみる」 ○音楽・美術・保健体育・技術家庭の力で「感性を磨く」

今ある自分の知識や技能をフル活用する体験、今しかできないことに挑戦してみる事が大切です。また、3年生は「半年後に確実にやってくる卒業の日のことを意識して過ごす」、2年生は「部活動や学友会の引き継ぎをはじめ、やがてくる中込中学校のリーダーになる日のことを意識して過ごす」、1年生は「この1学期を見返して、生活の具体的な軌道修正をし、2学期の初日を意識して過ごす」ことを大切にしてほしいと思っています。

若々しいエネルギーと誠実さと優しさに満ちた1学期となりました。ありがとうございました。保護者、地域の皆様には今後ともご支援いただけますようお願いいたします。

3学年「命の授業」～あいいろツバメプロジェクト～

今月4日に3学年を対象とし、有坂栄康先生を中心とした「あいいろツバメプロジェクト」の皆さんに『命の授業』をしていただきました。有坂先生は2016年にALSを発症し、現在、自宅療養されながらSNS等で生活の様子や教諭時代の記録を基にした命のメッセージを発信されたり、今回のように『命の授業』をされたりしています。

生徒は、自由に声を発することができない様子やストレッチャーでの移動が必要な先生の言葉や姿から誰よりも強く、大きなエネルギー（生きようとする力）を感じたはずだと思います。それぞれが誓った力を磨き続けていってほしいと思います。

